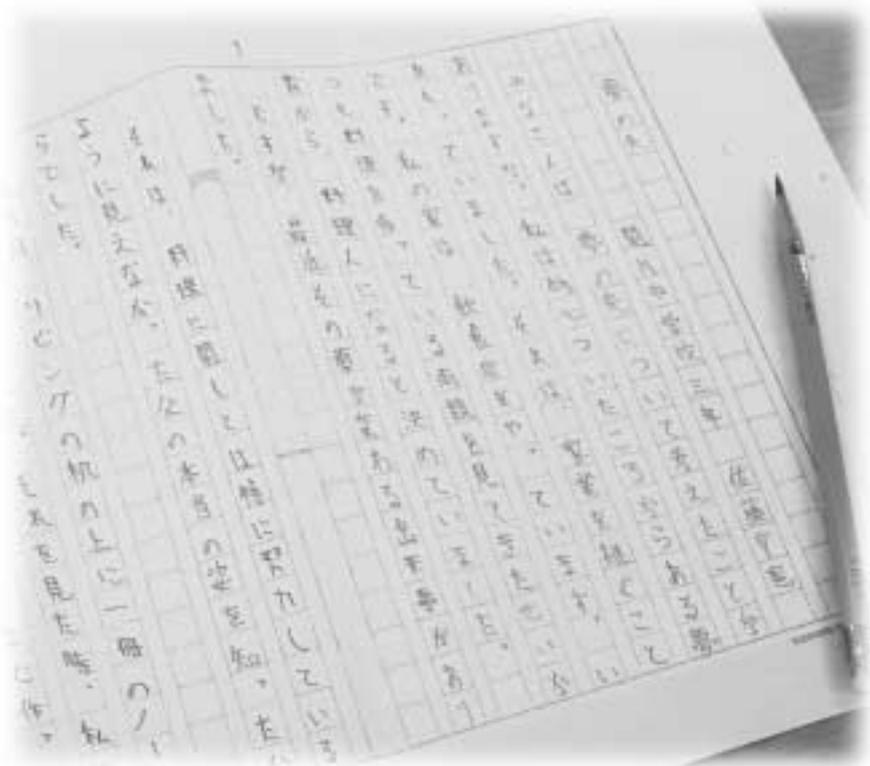


みんなに伝えたい わたしたちの思い

中学生が日頃考えている意見や主張、普段の生活の中で感じる家族や仲間との絆などを発表する「関川中学校わたしの主張大会」が7月23日、関川中学校で開かれました。各学年から選ばれた代表6人が、6分以内という規定のなか、言葉一つひとつに心をこめ力強く発表しました。審査の結果、村上・岩船地区大会（県村上健康福祉事務所主催）出場者に佐藤亨憲さん（3年・下関）を選出。佐藤さんは、8月18日に行われた同大会で発表し、奨励賞を受賞しました。

* 発表の要旨は次のとおり。発表順。



ひなこさん
近 日菜子さん
(2年・大島)

よりよい村を 作るために

私は今までの生活を振り返って見て、関川村には改善すべきところがあると思います。それは、対策をとっていても村のゴミが年々増加していくという問題と、当たり前なことであるのにお互いにあいさつを交わすことがよくできなくなっていることです。

私はこの二つの問題を改善するには、一人ひとりの小さな心遣いが大切だと思いました。小さな心遣いから問題点を改善することができ、よりよい関川村をつくることのできると思います。

どこの地域でも良い点と悪い点があると思いますが、私は村民の心遣いで関川村の問題点が改善され、村民全員が暮らしやすい村になることを願っています。



りささん
高橋理彩さん
(2年・大石)

自分を受け止めて

私は自分が嫌いでした。友達は優秀な成績をとったり、部活動でよい成績を残したり。それに比べ、私は失敗だらけでした。いつしか私は自分が生きている意味を考えないようにになりました。普段は明るく振る舞っている自分でしたが、心の中は複雑な気持ちでいっぱいでした。何もかもから逃げ出したくなるときが毎日のようにありました。

ですが、そんな私を変えてくれたのは先輩や友だちでした。私を支えてくれる人たちがいるということ。そのおかげで前向きに明るく生きたいと思えるようになりました。自分の良いところと悪いところの両方と向き合い、自分をそのまま受け止めたいです。さらに自分に自信を持ってポジティブに生きたいです。

2012 関川中学校 「わたしの主張」大会



大島 楓 さん
(1年・上野新)

そう感じたら、
そのときに

今年の六月、飼っていたやぎが亡くなりました。小さい頃から、ずっといてくれた雄のやぎ。私はやぎの最期を見届けることができませんでした。今までの感謝の気持ち、「ありがとう」の思いを伝えることもできませんでした。いつもそばにいるから、それが当たり前だから。大人になって家を出るときに伝えようと思っていた「ありがとう」の一言さえも言えなかったことを本当に後悔しました。伝えたいことを伝えられない。皆さんにはこんな悲しい思いをしてほしくありません。伝えたいことがあるのなら、伝えられるうちに伝えてください。「伝えたい！」そう感じたら、その時に自分の思いを伝えてください。その思いはきっと届きます。



市井 翔大 さん
(1年・山本)

弱点をつぶせ！

「パチン。」僕が打ったスマッシュは、見事、相手とは逆方向に決まりました。しかし、半年前はコースをねらうような打ち方はしていませんでした。そんな僕がコースをねらって打つようになったのは、部活動で先輩と試合をしたことがきっかけでした。その試合で、僕は何度もスマッシュを打ちました。しかし、甘いコースに入って、何度も先輩のカウンターをくらって、その結果負けしてしまったのです。この試合から気付いたことは、自分の弱点に気付く、その「弱点をつぶす」ことの大切さです。この「弱点をつぶす」という考え方を、これからの部活動や学習、毎日の生活に役立てていきたいと思っています。



米野 美樹 さん
(3年・下関)

初めて
実感したこと

昨年、体育祭閉会式フィナーレを担当する式典委員会に入りました。軽い気持ちで入り、始めは仕事内容が分かりませんでした。勝敗を超えて全校が感動するようなフィナーレを作ることは難しく、次第にやる気がなくなりました。モザイク画の担当として、一人で仕事を抱え込み、いいアイデアが思い浮かばず悩んでいました。そんな時、同じモザイク画担当の友達が新しい発想を示してくれたのです。おかげで仕事がかどり、運動会当日のフィナーレは成功しました。これまでも一人で仕事を抱え込んでしまうことがありましたが、「もっと他の人と協力して取り組めばよかった」と、改めて仲間と協力することの重要性を学びました。



佐藤 亨憲 さん
(3年・下関)

夢の先

小さいときから、家業を継ぎたいと思っていました。最近、ある出来事から父の本当の姿を知り、料理人として努力する父を尊敬するようになりました。父のような料理人になるという夢を持つようになったのです。ですが、このままでは難しいと気が付き、進路を真剣に考え、苦手を勉強も夢のために頑張ろうと思います。具体的に進路を考えると、両親が店を盛り立ててお客さんの信頼を得ようとしてきたこと、ずっと以前から働いて頑張ってきたくれたことも分かってきました。夢の実現まで迷惑をかけることもあるでしょうが、必ず恩返しをして両親を楽にさせたいです。いつか両親を越えたい！それが私の「夢の先」です。